UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)

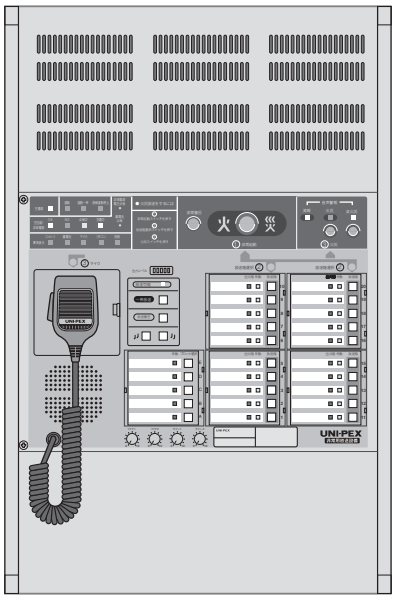
壁掛形非常用放送設備

連動式・10回線
EWA-010B

連動式・10回線・ラジオチューナー付※
EWA-010RB

連動式・20回線
EWA-020B

連動式・20回線・ラジオチューナー付※
EWA-020RB



EWA-020B

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

※ラジオチューナー付EWA-010RB、020RBをお買い求めのお客様は、別紙「ラジオチューナー部の取扱説明書」もご覧ください。

目　次

特長……2
安全上のご注意……3、4
使用上のお願い……5
非常放送のしくみ……6、7
各部の名称と説明……8～11
非常放送のしかた(1)～(6)……12～23
■感知器起動（発報連動）……12、13
■感知器起動（発報連動停止）……14、15
■発信機・非常電話起動（発報）……16、17
■発信機・非常電話起動（火災）……18、19
■手動（発報）……20、21
■手動（火災）……22、23
業務放送のしかた……24、25
ブロック放送について……26、27
後押し優先方式について……28、29
書き込みについて……30、31
接続できる機器について……32
■接続できる機器について……32
■マイク優先回路について……32
その他の動作……33
表示カードの使いかた……33
日常点検……34～36
■点検について……34
■電源の点検……35、36
こんなときには……36
定格・付属品……37
連絡先のご案内……40
保証書……40

特　長

●小規模から中規模の建築物に適した非常用放送設備です。
●自動火災報知設備（以下、自火報と呼ぶ）に連動して、音声警報による自動放送ができます。
●蓄電池、リモコン回線、スピーカー回線、非常・業務兼用マイク（本体マイク）、コンピューター自身の自己診断機能付きです。
●必要な場所だけに放送できる、ブロック指定放送が可能です。
●非常放送以外に、一般業務放送も可能です。
●電力増幅ユニットにより60W、120W、240W、360Wのいずれか一つが選べます。
●コールサインの上り4音、下り4音選択スイッチ付きです。
●業務放送にマイク優先回路を搭載しています。
●増設音声合成ボードの組み込みが可能です。
●汎用制御出力があります。
●音声警報による自動放送は、日本語・英語だけでなく、中国語および韓国語による放送も可能です。

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険･警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

◇記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。

⚠危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

蓄電池を分解／改造はしない

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の＋／－端子をショートさせない

発熱、発火の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災 ・ 感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切り、保守契約店または工事店にご連絡ください。

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災 ・ 感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線には触れない

感電の原因となります。

分解／改造はしない

火災 ・ 感電の原因となります。点検時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないでください。内部の点検 ・ 整備 ・ 修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災 ・ 感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、保守契約店または工事店にご連絡ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

決められたヒューズを使う

規定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

定期的に点検をする
非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災 ・ 感電の原因となります。

蓄電池の充電は、必ずこの機器を使用する
この機器以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災 ・ けがや周囲を汚損する原因となります。

蓄電池の寿命は4年です。4年毎に必ず新しい蓄電池に交換してください。また寿命は使用状態により違いますので、それ以前でも点検のときに、容量不足があれば新しい蓄電池に交換してください。火災のとき動作しない原因となります。交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災 ・ 感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指定以外の蓄電池は使用しない
蓄電池の破裂、液もれにより、火災 ・ けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

開梱や持ち運びは、必ず2人以上でおこなう
この機器は重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

蓄電池に張ってあるビニールカバーははがさない
ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

重量に耐える場所に取り付ける
取付場所の強度が不充分なとき、落下したりしてけがや破損の原因となることがあります。

蓄電池は、必ず点検をおこなう
蓄電池の点検は日常点検のほかに、外観点検および機能点検は6カ月に一度以上、総合点検は1年に一度以上行ってください。火災や故障の原因となることがあります。なお、点検費用については保守契約店または工事店にご相談ください。

機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。

使用上のお願い

●日常点検をおこなってください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。（点検方法は「保守点検のしかた」の項をごらんください。）

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費でおこないます。

くわしくは販売店にご相談ください。

●日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検をおこなってください。

●保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が**義務づけられています。**
建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
非常業務兼用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります**

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源（蓄電池）が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチには付属の非常放送用注意ラベルを貼付し、絶対に“切”にならないようにしてください。

●遮断装置について

- 本機には電源スイッチ（遮断装置）がありませんので、保護アース導体を除く、主電源のすべての極が遮断できる電源スイッチ、または配線用遮断器（安全ブレーカーなど）を配電盤などの建築設備に設置してください。

●設置について

- **本機の上や周囲に物を置かないでください。**
  本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障の原因となります。
  また、左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
- **操作説明書は本機の近くに置いてください。**
  非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。
  本機の上には絶対に置かないでください。（設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。）
- **本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しない。またはそれらを近付けないでください。**

※高周波機器（乾燥機,医療機器など）、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器（コンピュータ、電子楽器など）、空気清浄器など。

●お手入れのしかた

ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、から拭きしてください。

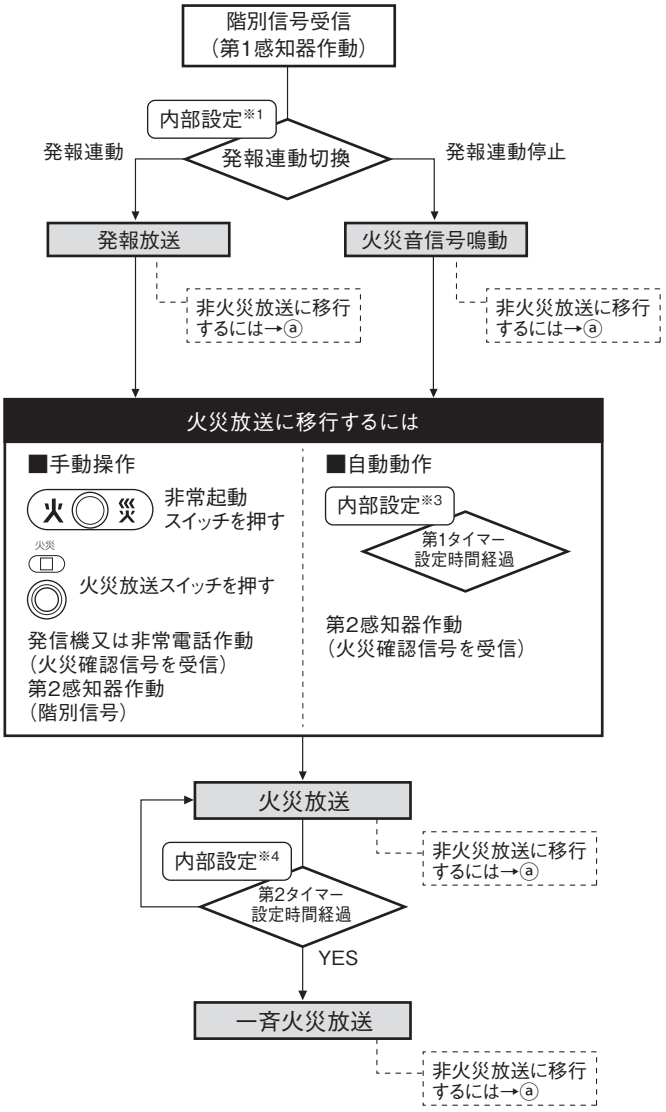
お願い

- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

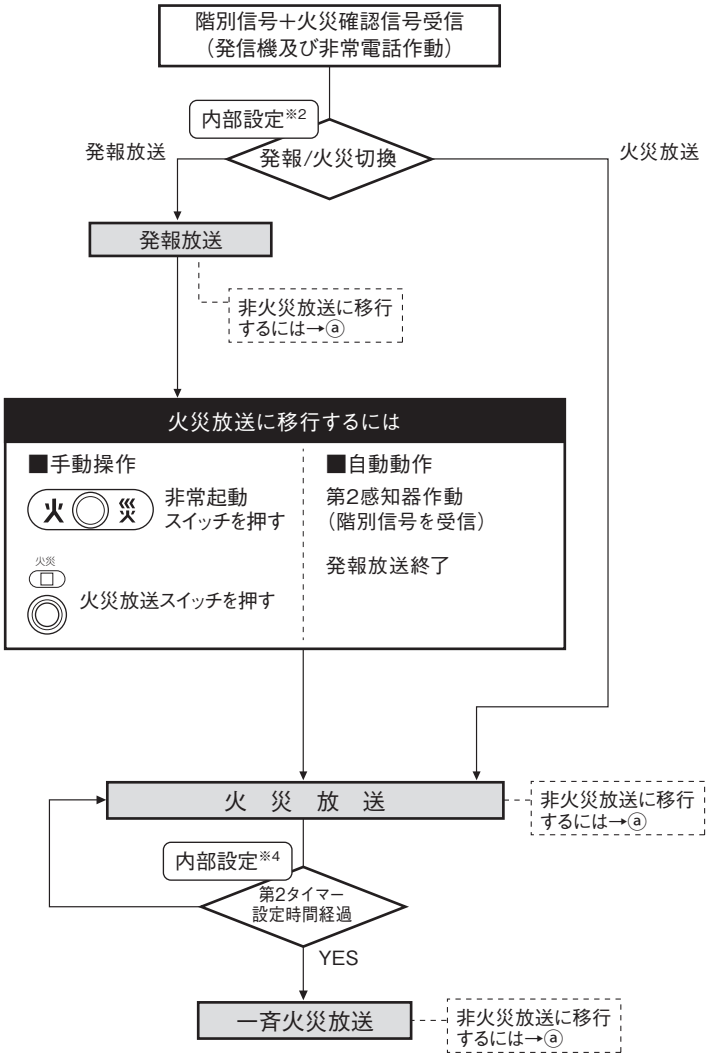
非常放送のしくみ

●非常用放送設備は、火災発生時に音声合成による音声警報を自動的に放送します。
もちろん、通常の呼出放送など、業務放送もおこなえます。
●起動方式により操作方法（動作）に少し差があります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。
●自火報に確認信号がない場合は、感知器起動動作になります。
●増設音声合成ボード（別売品）を使用して階情報変更が可能です。
（増設音声合成ボードについては、販売店にご相談ください。）

●火災感知器による起動



●発信機および非常電話による起動



内部設定について

下記の機能については工事の際に設定します。設定内容については工事店に確認してください。

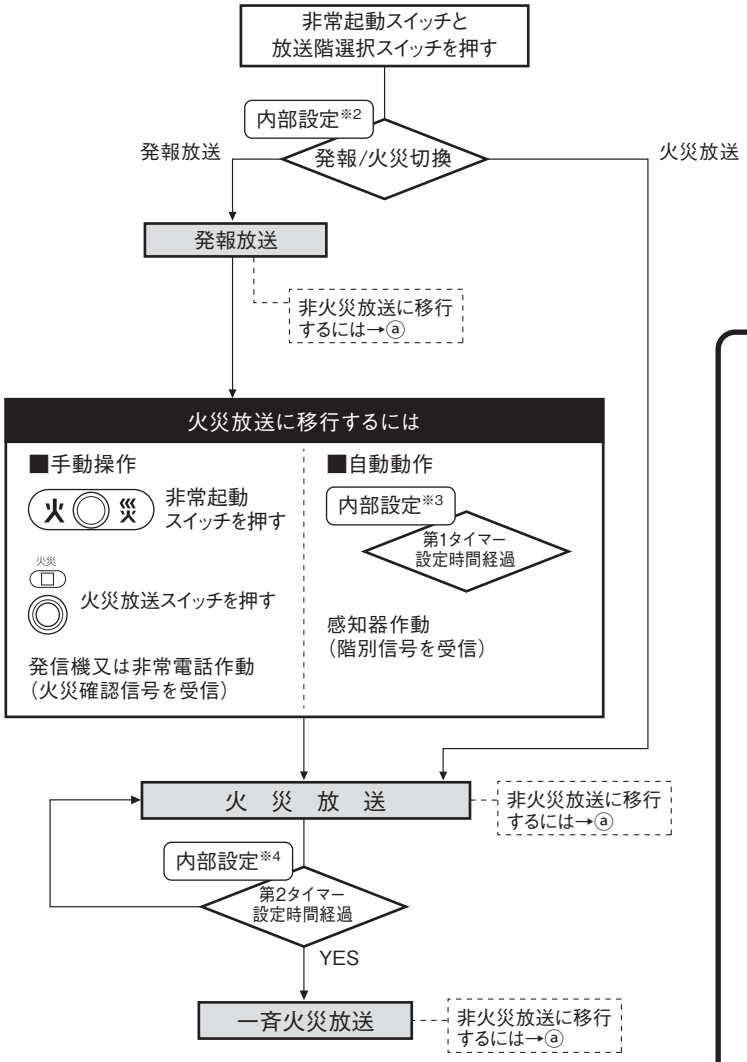
※1　発報連動切換設定・・・・・・自火報と連動する放送（発報放送または火災音信号鳴動）や、発報放送の放送先を設定します。（火災音信号はモニター出力のみです。）

※2　発報／火災放送切換設定・・自火報との連動で発報放送をおこなうか、発報放送をとばして火災放送をおこなうかを設定します。

※3　第1タイマー設定・・・発報放送から火災放送へ移行するまでの時間設定です。

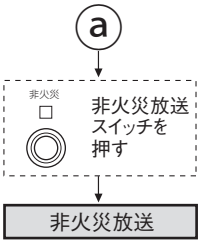
※4　第2タイマー設定・・・火災放送から一斉火災放送へ移行するまでの時間設定です。

●手動による起動



●非火災放送に移行するには

非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。



放送内容について

発報放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第 1 シグナル音）
「○○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第 1 シグナル音）
「火事です！火事です！○○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー（第 2 シグナル音）

非火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第 1 シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

各放送文の○○には、感知器第 1 発報を出火階とした階情報が入ります。
（詳細は工事説明書（書き込み編）8、9 ページの「2. 階情報指定」を参照ください。）

各部の名称と説明

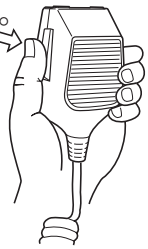
❶マイク指示灯（オレンジ色 ③マイク ）

- 非常時、オレンジ色に点滅します。
- 本体マイクの放送をしているあいだは、点灯にかわります。

❷非常・業務兼用マイク（本体マイク）

※本取扱説明書、工事説明書および操作説明書では「本体マイク」と表記します。

- 本体マイクをはずし、スイッチを押しながら放送してください。



❸モニタースピーカー

- 本体マイクのスイッチを押すと、モニタースピーカーの音は切れますのでハウリング（ピー音）はおこりません。
- 音量は、本体マイクドア内のモニター音量スイッチ（大／中／小）で切り換えます（音量0には設定できません）。

❹放送可能表示灯（緑色） 放送可能 □

一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能となります。放送中に消灯したときは、リモコン放送、一般外部放送、チャイム放送などを放送中です。（28～29ページの「後押し優先方式について」をご覧ください。）

❺一斉放送スイッチ 一斉放送 □

- 一斉放送するときに押します。
  スピーカーが3線式の場合、アッテネーター（音量調節器）が「OFF」でも放送できます。
  （この場合、放送階選択指示灯が点灯します。）
- 出荷時の設定は「緊急指定あり（アッテネーター：無効）」です。「通常一斉（アッテネーター：有効）」への切り換えについては、工事説明書「書き込み編」の13ページをご覧ください。

❻放送復旧スイッチ 放送復旧 □

放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。（放送可能表示灯が消えます。）

❼コールサインスイッチ

放送可能表示灯が点灯している時に、コールサインスイッチを押すと、コールサインを放送できます。

上り4音を放送できます。 □ □ 下り4音を放送できます。

❽出力レベル表示

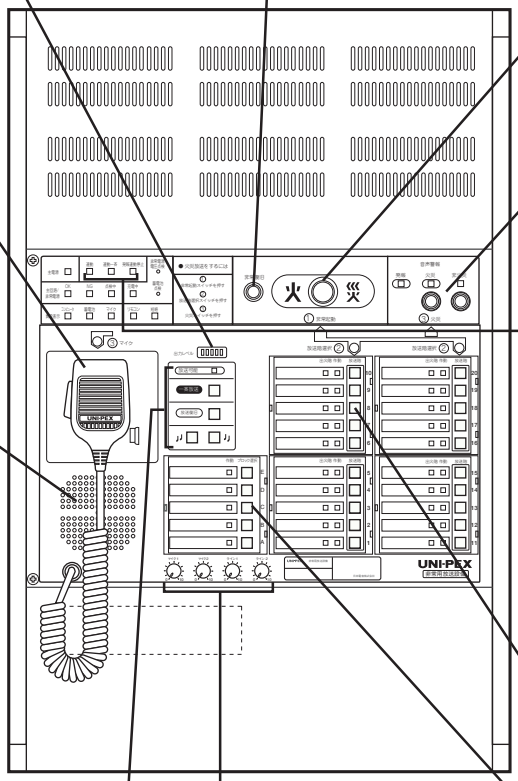
［出力レベル］

- スピーカーより流れる音の出力レベルを表示します。
- 接続された機器の音量調節は、赤色の表示灯が点灯しないよう調節します。

❾非常復旧スイッチ

［非常復旧］

非常放送を復旧するときスイッチを押します。



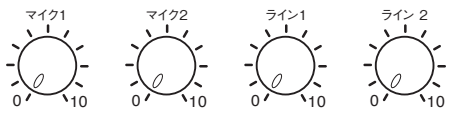
❿入力音量つまみ

［マイク1、マイク2、ライン1、ライン2］

- 右にまわすと音量が大きくなります。
- 出力レベル表示灯により各々の音量を決めてください。（右表を目安としてください。）

	出力レベル表示灯
アナウンス	緑色2～3個点灯
BGMなど	緑色1～2個点灯

- ライン1はCD入力、ライン2はページング入力としても使用可能です。



⓫非常起動スイッチ [非常起動]

- 手動で「非常放送」を放送するときに押します。（発報放送時または発報連動停止状態で階別信号入力時に、このスイッチを押して火災放送することができます。）

⓬火災灯（赤色）

- 自火報からの階別信号を受信すると点滅します。
- 自火報からの階別信号+火災確認信号を受信すると点灯します。
- 手動起動スイッチを押すと点灯します。

⓭連動表示灯（赤色）

連動 □

本体マイクドア内の連動スイッチを押すと点灯し、連動一斉表示灯は消灯します（出荷時：点灯）。点灯時に自動火災報知設備からの階別信号を受信すると出火階と連動階に発報放送（非常放送）が放送されます。

⓮連動一斉表示灯（赤色）

連動一斉 □

本体マイクドア内の連動一斉スイッチを押すと点灯し、連動表示灯は消灯します。
点灯時に自動火災報知設備からの階別信号を受信すると一斉に発報放送（非常放送）が放送されます。

⓯発報連動停止表示灯（赤色）

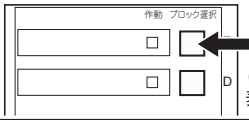
発報連動停止 □

非常放送時に発報放送を放送したくない場合は、本体マイクドア内の発報連動停止スイッチを押し、点灯状態にします（出荷時：消灯）。
点灯時に自動火災報知設備からの階別信号を受信すると、非常放送状態になりますが発報放送は放送されません。

⓰ブロック選択スイッチ [ブロック選択]

⓱ブロック作動灯（緑色）[作動]

- ブロック指定した場所に放送するとき押します。
- ブロック選択スイッチを押すと、ブロック指定した作動表示灯が緑色に点灯します。
- ブロック選択スイッチの復旧は、放送復旧スイッチを押します。



⓲発報放送表示灯（オレンジ色）

発報 □

発報放送時に点灯します。

⓳火災放送表示灯（赤色）

火災 □

⓴火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと火災放送表示灯（赤色）が点灯し火災放送が放送されます。

㉑非火災放送表示灯（緑色）

非火災 □

㉒非火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと非火災放送表示灯（緑色）が点灯し非火災放送が放送されます。

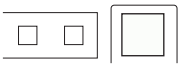
㉓放送階選択指示灯（オレンジ色）

放送階選択 ②

- 非常時（階別信号など、外部起動で非常動作になった場合）オレンジ色に点灯します。
- 手動非常動作時（非常起動スイッチON）に点滅します。この後階別信号入力や手動入力（放送階選択スイッチ）で点灯に変わります。
- 一般放送時、一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチを押したとき点灯します。（書き込みによる緊急指定した状態で点灯）

㉔放送階選択スイッチ

出火階 作動　放送階



[放送階選択]

- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が点灯）（緑色）
- 放送階選択スイッチを個別に復旧するときは、再度押します。（作動表示灯が消える）
- すべてを復旧するときは放送復旧スイッチを押します。（すべての作動表示灯が消えます。）

㉕出火階表示灯（赤色）[出火階]

- 非常時、階別信号により起動を受けた階の出火階表示灯が赤色に点灯し、出火階を表示します。

㉖作動表示灯（緑色）[作動]

- 放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
- 一斉放送スイッチを押すとすべてが点灯します。
- 非常時、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカー回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このとき、短絡表示灯（赤）も点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

各部の名称と説明

㉗主電源表示灯（緑色）[主電源]
- 常用電源（AC100V）が使用されているとき、緑色に点灯します。
- 非常電源（DC 24V）に切り換わると消灯します。（停電時の非常動作時）

㉘非常電源電圧点検スイッチ[非常電源電圧点検]
このスイッチを押している間は主回路/非常電源のOK、NG表示灯に結果が表示されます。
（OK表示灯が点灯すれば正常です。）

㉙主回路電源電圧正常表示灯（緑色）[OK]
通常は主回路電源電圧が正常なとき点灯します。蓄電池/非常電源の各点検スイッチを押して正常な電圧のとき点灯します。

㉚主回路電源電圧異常表示灯（赤色）[NG]
通常は主回路電源電圧が異常なとき点灯します。蓄電池／非常電源の各点検スイッチを押して異常のとき点灯します。

㉛点検中表示灯（オレンジ色）[点検中]
非常電源電圧、及び蓄電池の点検中はオレンジ色に点灯します。

㉜充電中表示灯（緑色）[充電中]
充電中は緑色に点灯します。

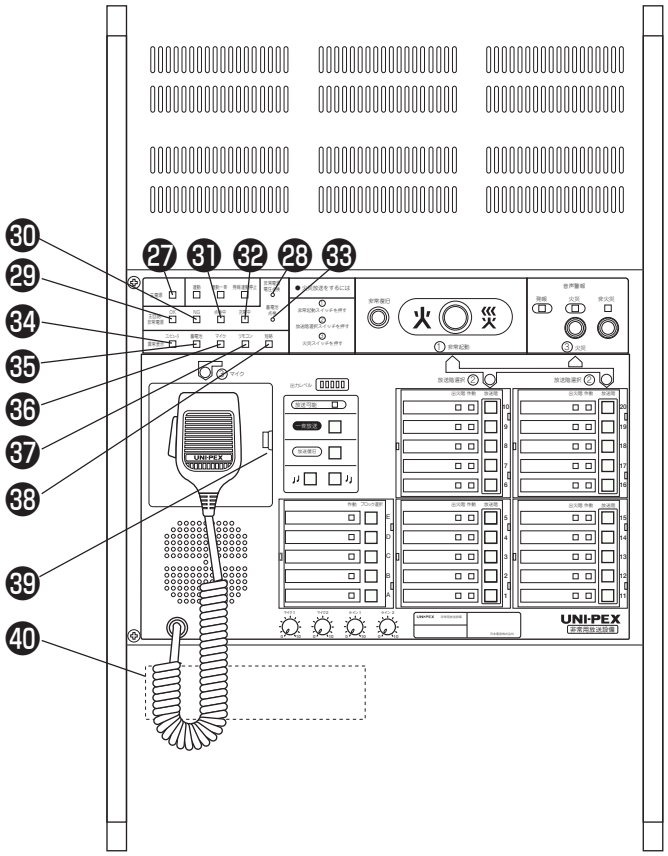
㉝蓄電池点検スイッチ[蓄電池点検]
このスイッチを押すと主回路/非常電源のOK、NG表示灯に約10秒間結果が表示されます。
（OK表示灯が点灯すれば正常です。）

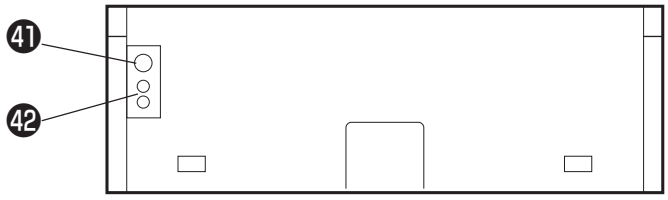
㉞～㊳各種異常表示灯（赤色）
- 操作パネル左上に異常表示灯（5種類）があります。点灯したとき、異常表示灯の名称を確認してから販売店、保守契約店にご連絡ください。
- 異常表示灯点灯時は警告音「ピー」が鳴り、異常をしらせます。警告音を止めるには本機のいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。（コンピューター異常表示灯点灯時を除く。34ページのコンピューター制御スイッチの説明を参照）

㉞コンピューター異常表示灯（赤色）[コンピュータ]
コンピューター異常時、点灯します。

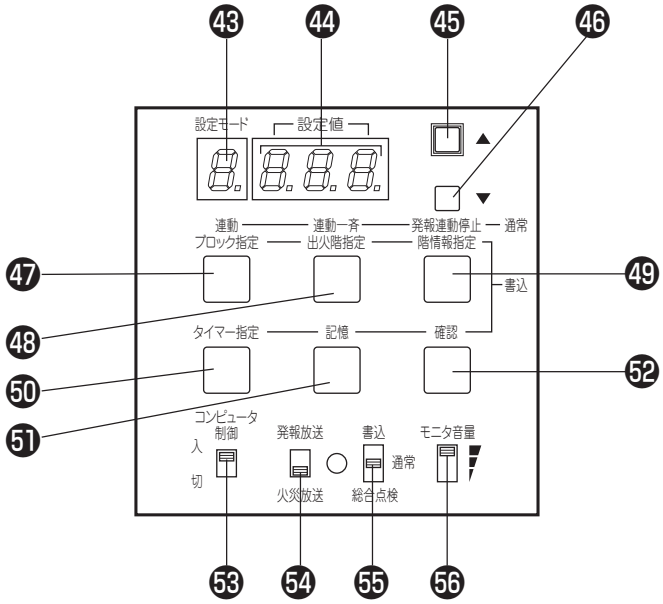
㉟蓄電池異常表示灯（赤色）[蓄電池]
蓄電池電圧が異常の場合、点灯します。

㊱本体マイク異常表示灯（赤色）[マイク]
本体マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。リモコンのマイク異常であれば異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。





本体マイクドア㊴内部



㊲リモコン回線異常表示灯（赤色）[リモコン]
リモコン回線異常時、点灯します。異常のあるリモコンのリモコン回線異常表示灯も点灯します。

㊳短絡表示灯（赤色）[短絡]
スピーカー回線が短絡すると、赤色に点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

お願い

短絡表示灯が赤色に点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

㊴本体マイクドア
開けると内部に設定用と書き込み用のスイッチ類があります。

㊵ラジオチューナー部
（EWA-010RB、EWA-020RBのみ）
別紙ラジオチューナー部の取扱説明書をご覧ください。

㊶マイク1入力ジャック[マイク1入力]
有線マイクなどの接続ができます。

㊷ライン2入力ジャック[ライン2入力]
外部機器などの接続ができます。

㊸設定モード表示（緑色）
各設定スイッチに対応したモード番号を表示します。

㊹設定値表示（緑色）
各設定項目の設定値または数値を表示します。

㊺アップスイッチ[▲]
㊻ダウンスイッチ[▼]
書き込み設定時、このスイッチを押すたびに設定値表示部の設定値が切り替わります。または数値がアップ／ダウンします。設定項目により異なります。

㊼連動スイッチと㊽連動一斉スイッチは、後押し優先です。どちらか一方が選択された状態となります。

㊼連動／ブロック指定スイッチ（後押し優先）
- 書き込みスイッチの位置が「通常」のとき連動スイッチとして動作します。スイッチを押すと連動状態になり、連動表示灯が点灯します。階別信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。
- 書き込みスイッチの位置が「書込」のときブロック指定スイッチとして動作します。ブロック放送を設定するときに使用します。（詳しくは工事説明書「書き込み編」の14～15ページをご覧ください。）

㊽連動一斉／出火階指定スイッチ（後押し優先）
- 書き込みスイッチの位置が「通常」のとき連動一斉スイッチとして動作します。
  スイッチを押すと連動一斉状態となり、連動一斉表示灯が点灯します。階別信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。
- 書き込みスイッチの位置が「書込」のとき出火階指定スイッチとなります。出火階を設定するときに使用します。（詳しくは工事説明書「書き込み編」の6～7ページをご覧ください。）

㊾発報連動停止／階情報指定スイッチ
- 書き込みスイッチの位置が「通常」のとき発報連動停止スイッチとして動作します。スイッチを押すたびに発報連動停止状態／発報連動状態が切り換わります。
- 書き込みスイッチの位置が「書込」のとき階情報指定スイッチとなります。音声警報を設定するときに使用します。（詳しくは工事説明書「書き込み編」の8ページをご覧ください。）

㊿タイマー指定スイッチ
- 書き込みスイッチの位置が「書込」のとき、タイマー指定モードを設定します。押すたびに指定モードを変更します。

(51)記憶スイッチ
- 書き込みスイッチの位置が「書込」のとき、書き込んだ内容を記憶させるとき、押します。
- 記憶されると確認音（ピー）が約1秒鳴ります。

(52)確認スイッチ
書き込んだ内容を確認するとき、押します。

(53)コンピューター制御スイッチ
[コンピュータ制御 入／切]
- 通常は「入」位置とします（出荷時：「入」位置）。

(54)発報放送／火災放送切換スイッチ
[発報放送／火災放送]
設置時に発報放送／火災放送の指定をします。

(55)書き込みスイッチ[書込／通常／総合点検]
- 書込、総合点検、通常の切換スイッチです。
- 書き込み時は「書込」位置、総合点検時は「総合点検」位置にします。書き込み、総合点検終了後は、必ず「通常」位置にして、発報放送／火災放送切換スイッチと一緒に固定金具で固定してください。（詳しくは工事説明書「本編」の36ページをご覧ください。）
- 通常は「通常」位置とします（出荷時：「通常」位置）。
- 総合点検モードでは本機の動作をスピーカー回線と切り離して確認できます。

(56)モニター音量スイッチ[モニタ音量]
モニター音量を3段階（大／中／小）に切り換えできます（非常放送時は無効です。音量0には設定できません）。

非常放送のしかた（1） 感知器起動

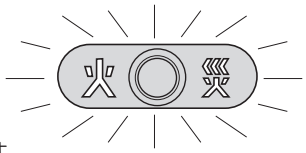
発報連動停止 表示灯を消灯させる（出荷時：消灯）

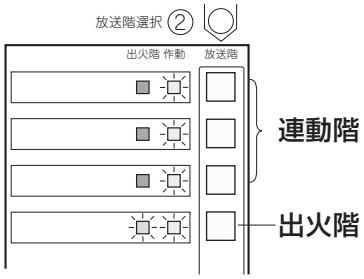
点灯している場合、本体マイクドア内の”発報連動停止スイッチ”で「消灯」に切り換えてください。（10〜11ページ参照）

（階別信号入力）
感知器から信号がくる。
（第1報）

1 出火階、連動階に発報放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」





連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。
- ●火災灯点滅（赤色）
- ●出火階表示灯点灯（赤色）
- ●階別の作動表示灯点灯（緑色）

2 操作を選択する

●**火災**➡火災放送スイッチを押す

●非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。
以下の場合には自動的に火災放送されます。
- ・発信機起動（火災確認信号+階別信号）
- ・非常電話作動（火災確認信号+階別信号）
- ・第2感知器作動（階別信号）
- ・同上（火災確認信号）
- ・第1タイマータイムアップ（2〜5分）

●**本体マイク放送** ➡ Ⓐへ
本体マイクを外し、本体マイクスイッチを押すと本体マイク放送が優先して流れます。

●**非火災** ➡ Ⓑへ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー　ビュー　（第2シグナル音）

●本体マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
本体マイクで放送する場合はⒶへ

●第2タイマーの設定時間（0分／2〜5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**4**へ

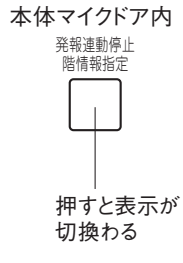
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

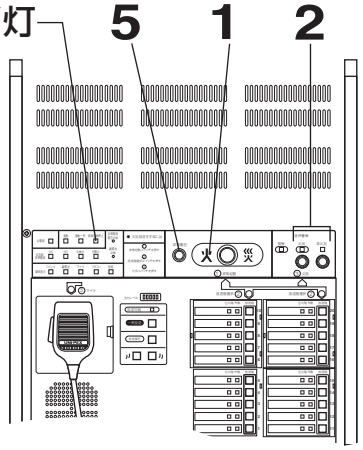
●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→Ⓑへ

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●本体マイクで放送する場合はⒶへ
●「非火災放送」する場合はⒷへ

※**発報連動停止** 消灯





5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

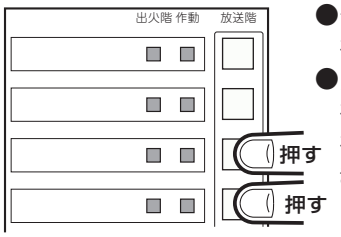
●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

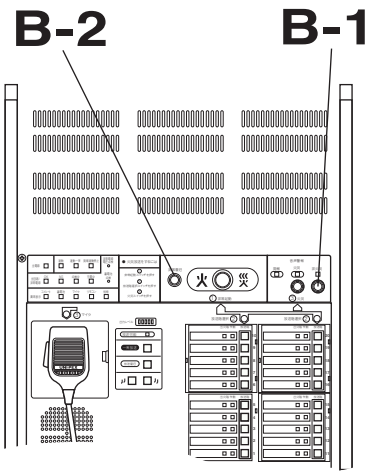
放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

非常放送のしかた(2) 感知器起動

発報連動停止 表示灯を点灯させる（出荷時：消灯）

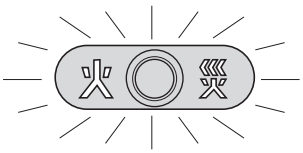
消灯している場合、本体マイクドア内の”発報連動停止スイッチ”で「点灯」に切り換えてください。（10〜11ページ参照）

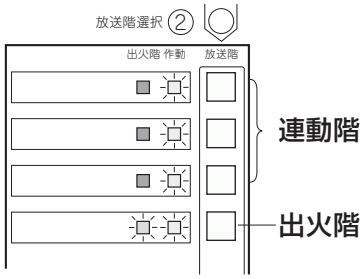
（階別信号入力）
感知器から信号がくる。
（第1報）

1 火災音信号が鳴る。

ピー、ピー、ピー

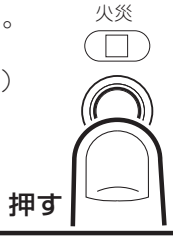
「発報放送」は、放送されません。
- ●火災灯点滅（赤色）
- ●出火階表示灯点灯（赤色）
- ●階別の作動表示灯点灯（緑色）





2 操作を選択する

- ●**火災**➡火災放送スイッチを押す
- ●非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。
  以下の場合には自動的に火災放送されます。
  - ・発信機起動（火災確認信号+階別信号）
  - ・非常電話作動（火災確認信号+階別信号）
  - ・第2感知器作動（階別信号）
  - ・同上（火災確認信号）
  - ・第1タイマータイムアップ(2〜5分)



●本体マイク放送➡Ⓐへ

本体マイクを外し、本体マイクスイッチを押すと本体マイク放送が優先して流れます。

●非火災➡Ⓑへ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される

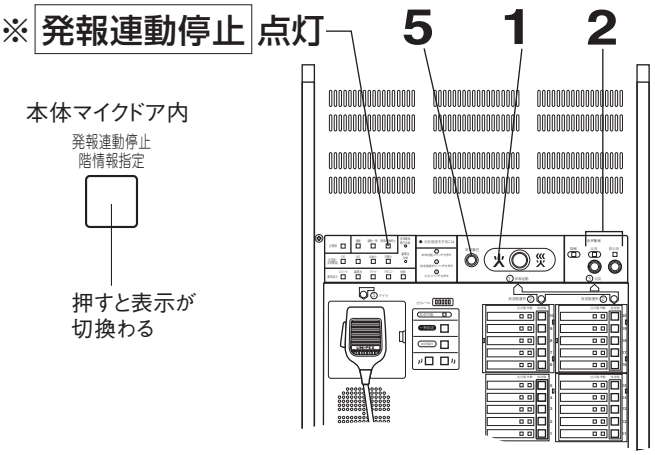
ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー　ビュー （第2シグナル音）

- ●本体マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
  本体マイクで放送する場合はⒶへ
- ●第2タイマーの設定時間(0分／2〜5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**4**へ
- ●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。
- ●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→Ⓑへ

4 「一斉火災放送」が放送される

- ●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- ●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- ●本体マイクで放送する場合はⒶへ
- ●「非火災放送」する場合はⒷへ

※**発報連動停止**点灯



5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

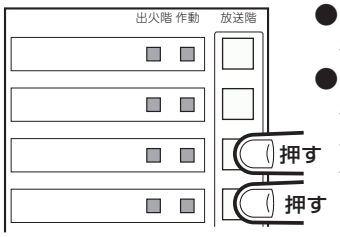
●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

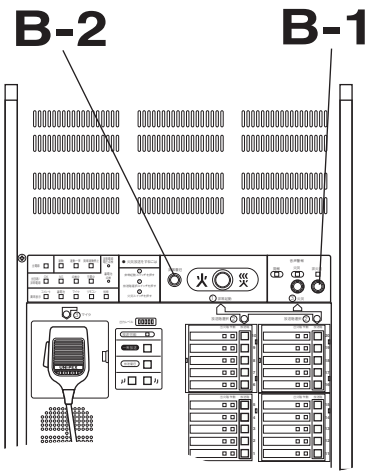
放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

非常放送のしかた(3) 発信機・非常電話起動(発報)

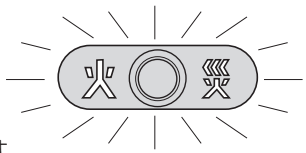
「発報放送」設定にする(出荷時:発報放送)

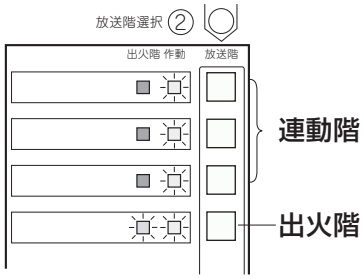
本体マイクドア内の”発報放送／火災放送切換スイッチ”を「発報放送」側にしてください。
(10〜11ページ参照)

(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号がくる。
(第1報)

1 出火階、連動階に発報放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」





連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。
- ●火災灯点滅(赤色)
- ●出火階表示灯点灯(赤色)
- ●階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

●**火災**➡火災放送スイッチを押す

●非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。
以下の場合には自動的に火災放送されます。
- ・第2感知器作動(階別信号)
- ・発報放送終了

●**本体マイク放送** ➡ Ⓐへ
本体マイクを外し、本体マイクスイッチを押すと本体マイク放送が優先して流れます。

●**非火災** ➡ Ⓑへ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●本体マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
本体マイクで放送する場合はⒶへ

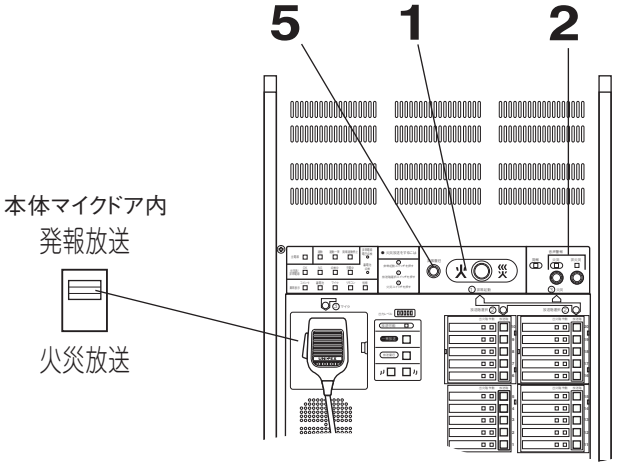
●第2タイマーの設定時間(0分／2〜5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**4**へ

●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→Ⓑへ

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●本体マイクで放送する場合はⒶへ
●「非火災放送」する場合はⒷへ



5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

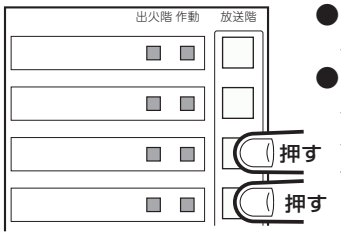
●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

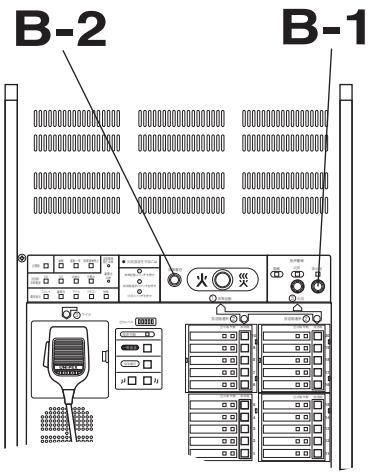
放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す。

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

非常放送のしかた(4) 発信機・非常電話起動(火災)

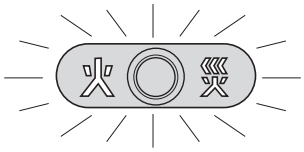
「火災放送」設定にする(出荷時:発報放送)

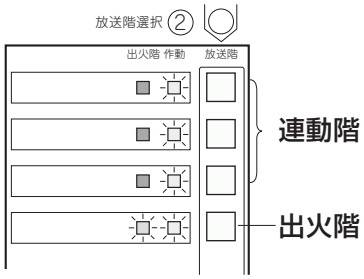
本体マイクドア内の”発報放送／火災放送切換スイッチ”を「火災放送」側にしてください。
(10〜11ページ参照)

(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号がくる。
(第1報)

1 出火階、連動階に火災放送が放送される

**ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー
ビュー　(第2シグナル音)**



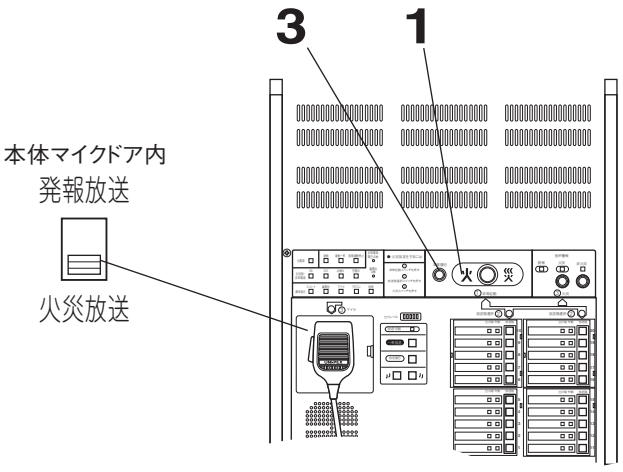


連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。
●火災灯点灯(赤色)
●出火階表示灯点灯(赤色)
●階別の作動表示灯点灯(緑色)

●本体マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。本体マイクで放送する場合はⒶへ
●第2タイマーの設定時間(0分／2〜5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**2**へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。
●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→Ⓑへ

2 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●本体マイクで放送する場合はⒶへ
●「非火災放送」する場合はⒷへ



3 非常復旧スイッチを押す

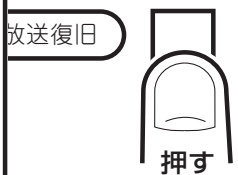
非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

●放送階を選択し直すとき

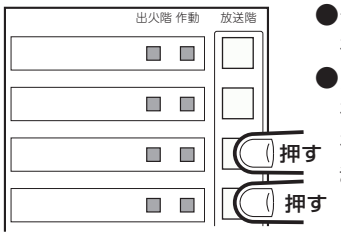
①放送復旧スイッチを押す。



※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

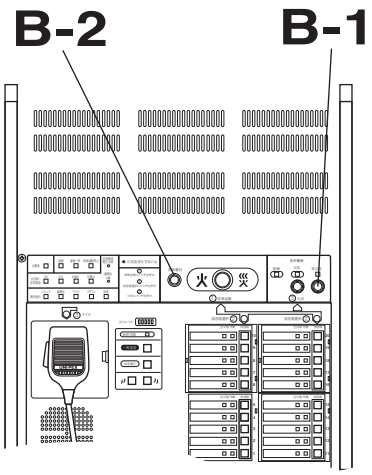
放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

非常放送のしかた(5) 手動(発報)

手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書 (本編) 24ページをご覧ください。

「発報放送」設定にする (出荷時:発報放送)

本体マイクドア内の”発報放送／火災放送切換スイッチ”を「発報放送」側にしてください。
(10〜11ページ参照)

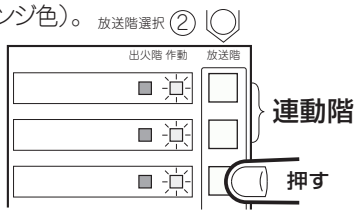
1 非常起動スイッチを押す

●火災灯点灯(赤色)。
●放送階選択指示灯が点滅(オレンジ色)。

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

押した場所が出火階となり、発報放送が放送されます。
一斉放送スイッチで一斉放送も可能です。
●放送階・連動階の作動表示灯が点灯(緑色)。
●放送階選択指示灯が点灯(オレンジ色)。

ピンポン ピンポン ピンポン
(第1シグナル音)
「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



3 操作を選択する

●**火災**➡火災放送スイッチを押す
●非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。
以下の場合には自動的に火災放送されます。
・発信機起動(火災確認信号+階別信号)
・非常電話作動(火災確認信号+階別信号)
・感知器作動(階別信号)
・第1タイマータイムアップ(2〜5分)

●**本体マイク放送** ➡ Ⓐへ
本体マイクを外し、本体マイクスイッチを押すと本体マイク放送が優先して流れます。

●**非火災** ➡ Ⓑへ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

4 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

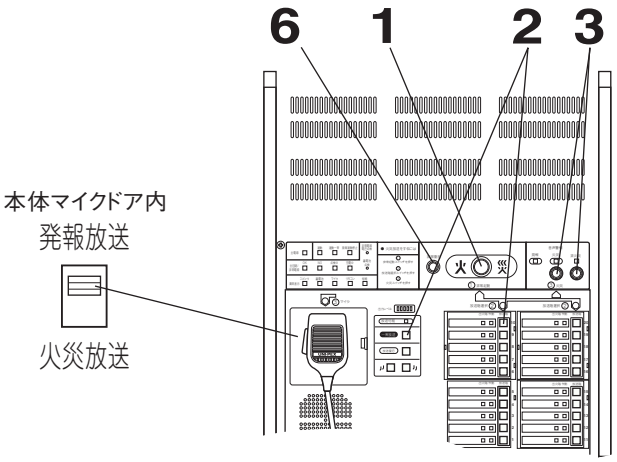
●本体マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
本体マイクで放送する場合はⒶへ
※●第2タイマーの設定時間(0分／2〜5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**5**へ
※●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。
●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→Ⓑへ
※**2**で一斉放送スイッチを押している場合は関係ありません。

5 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●本体マイクで放送する場合はⒶへ
●「非火災放送」する場合はⒷへ

6 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

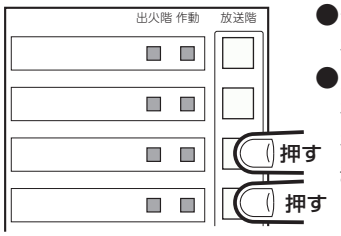
●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

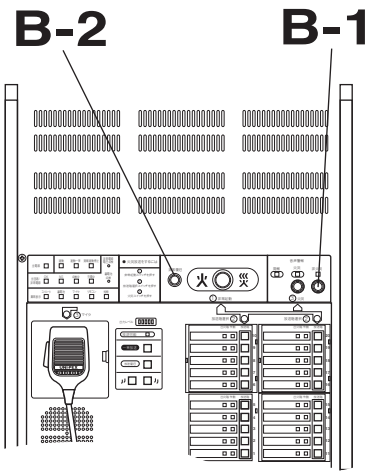
放送階選択指示灯が点滅（オレンジ色）。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

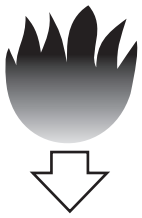
ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

非常放送のしかた(6) 手動(火災)



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書 (本編) 24ページをご覧ください。

「火災放送」設定にする (出荷時:発報放送)

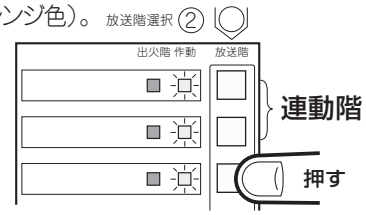
本体マイクドア内の”発報放送／火災放送切換スイッチ”を「火災放送」側にしてください。
(10〜11ページ参照)

1 非常起動スイッチを押す

●火災灯点灯(赤色)。
●放送階選択指示灯が点滅(オレンジ色)。

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

一斉放送スイッチで一斉放送も可能です。
●放送階・連動階の作動表示灯が点灯(緑色)。
●放送階選択指示灯が点灯(オレンジ色)。



3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「火事です!火事です!火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー　ビュー　ビュー (第2シグナル音)

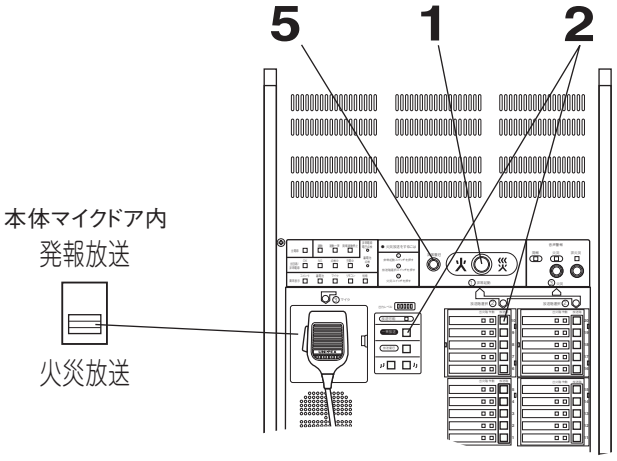
●本体マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
本体マイクで放送する場合は(A)へ
※●第2タイマーの設定時間(0分／2〜5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 →**4**へ
※●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。
●非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。→(B)へ
※**2**で一斉放送スイッチを押している場合は関係ありません。

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●本体マイクで放送する場合は(A)へ

5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



Ⓐ状況に応じて、本体マイクで放送する（本体マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階に本体マイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、本体マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、本体マイクで放送した後、本体マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります。

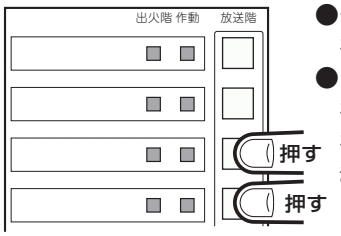
●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

※第2タイマーの設定時間（0分／2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

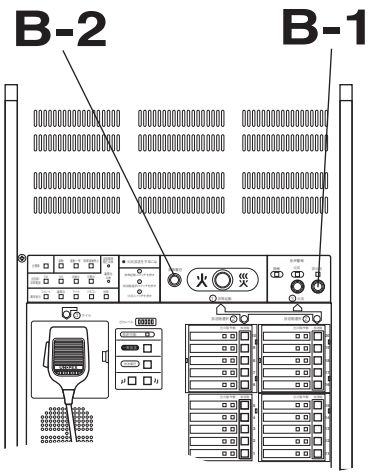
放送階選択指示灯が点滅（オレンジ色）。

②必要な階を選択し、再び本体マイクで放送する。



●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押す。
●火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

Ⓑ「非火災放送」を放送するには



B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送スイッチを押すと、「非火災放送」が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

B-2 非常復旧スイッチを押す

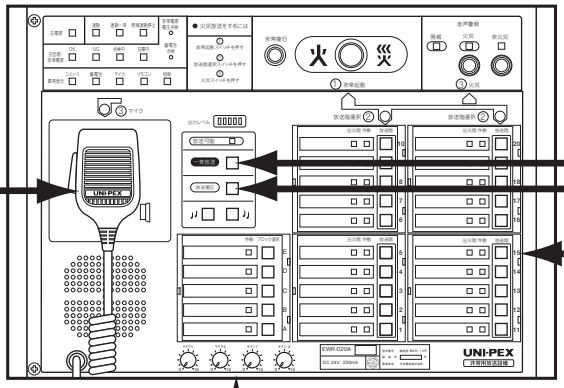
非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）

業務放送のしかた

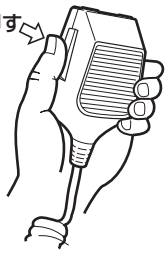
太い矢印は操作の手順を示します。

細い矢印は操作部を示します。



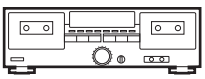
本体マイクで放送する

スイッチを押す

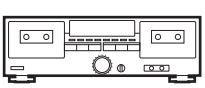


マイク1(2)のマイクロホンでアナウンス放送するとき

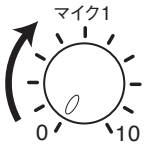
テープレコーダーやCDを放送するとき



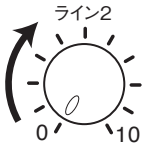
テープレコーダーやCDを放送するとき



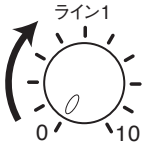
マイク1(2)音量調節つまみを調節します。



ライン2音量調節つまみを調節します。

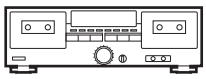


ライン1音量調節つまみを調節します。



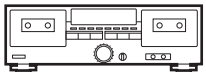
テープレコーダーやCDプレーヤーを「再生」にします。

操作方法については、テープレコーダーやCDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。



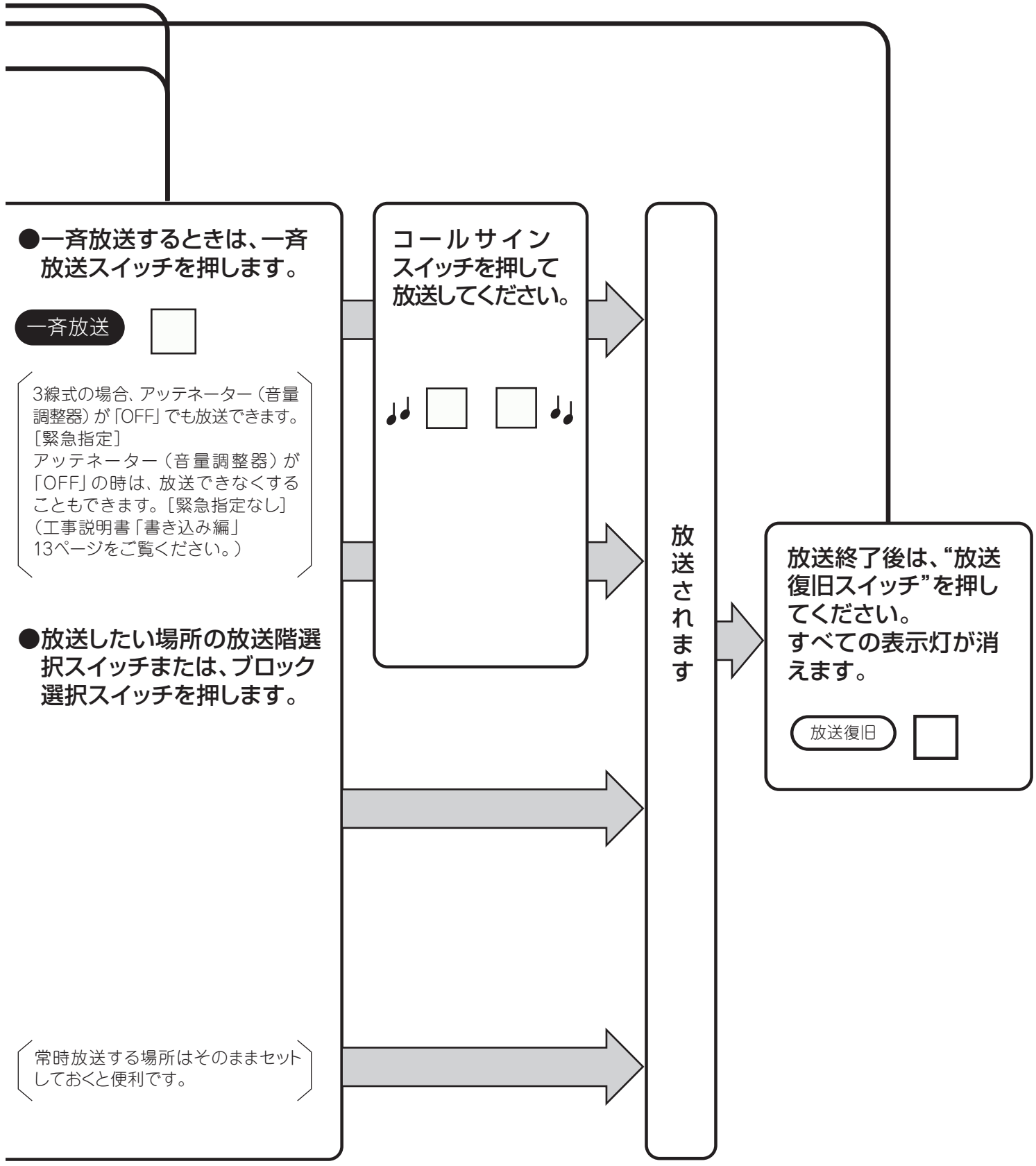
テープレコーダーやCDプレーヤーを「再生」にします。

操作方法については、テープレコーダーやCDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。



※音量つまみの目盛は、7か8が目安ですが正しくは、出力レベル表示灯が緑色に点灯する範囲内で音量を調節してください。

※停電時は、業務放送はできません。

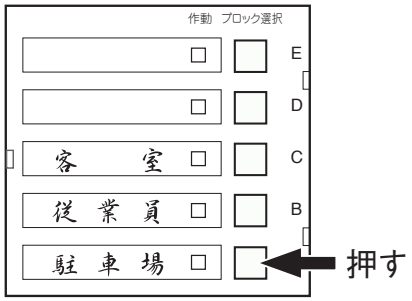


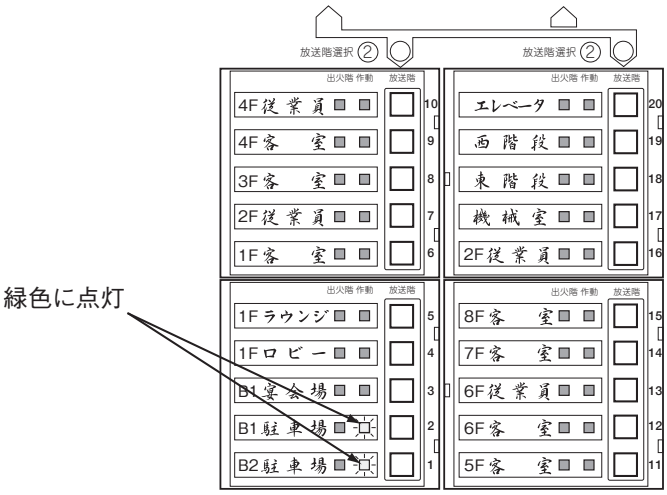
ブロック放送について

A～Eのブロック選択スイッチにより、階とは無関係に、同一放送したい場所をまとめて放送することができます。

●一つのブロックに放送するとき

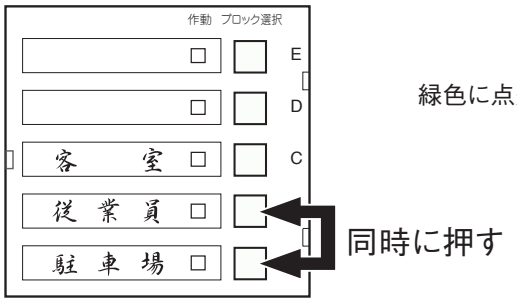
- 駐車場だけに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「駐車場」を押します。
- 駐車場すべての作動表示灯が点灯します。

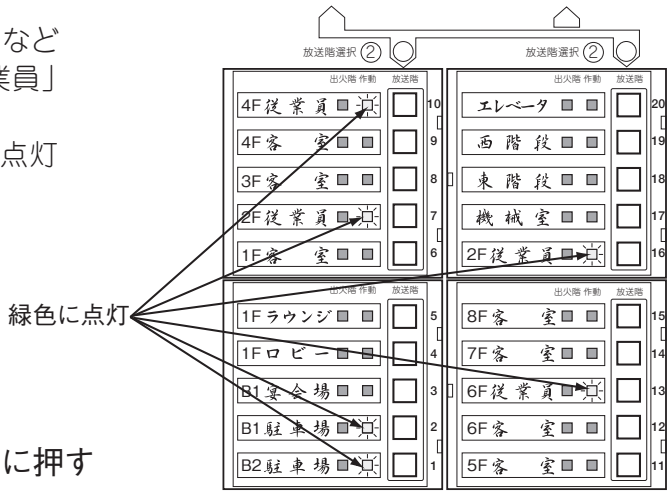




●二つのブロックに放送するとき

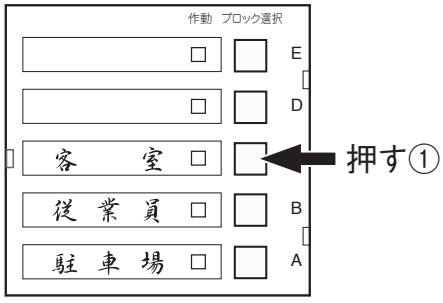
- 駐車場と従業員室に同一放送をしたいときなどは、ブロック選択スイッチの「駐車場」と「従業員」を同時に押します。
- 駐車場および従業員すべての作動表示灯が点灯します。

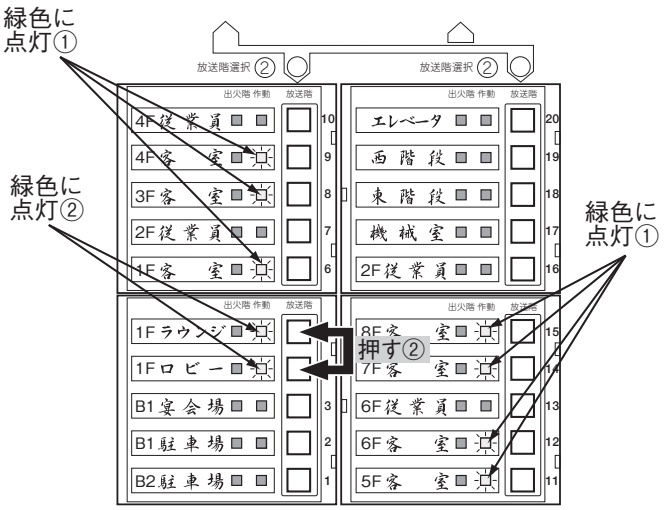




●ブロックに追加放送するとき

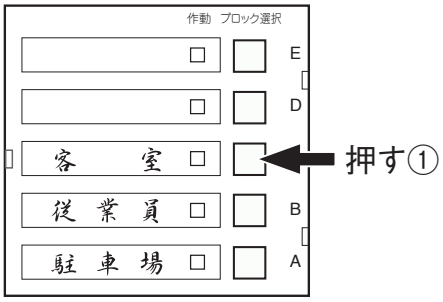
- すべての客室と、1Fラウンジ、1Fロビーに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、1Fラウンジ、1Fロビーの放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべてと、1Fラウンジ、1Fロビーの作動表示灯が点灯します。

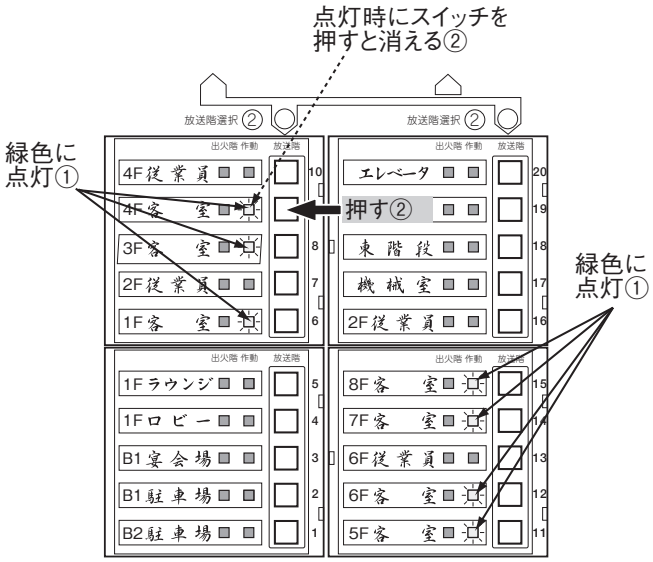




●指定したブロックの中に放送を流したくない場所があるとき

- すべての客室に放送したいが、4Fの客室で重要な会議をしているため、放送を流せないときなどは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、4F客室の放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべての作動表示灯が点灯し、4F客室の作動表示灯が消えます。

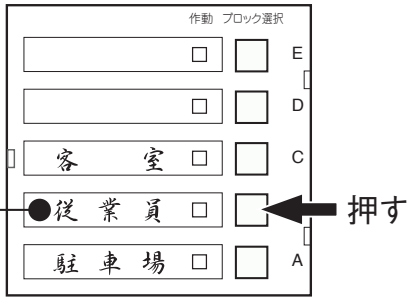




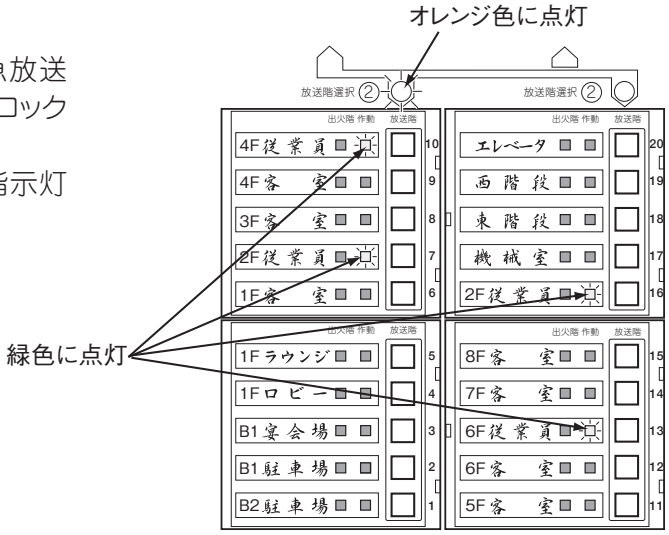
●ブロックに緊急放送をしたいとき

- 緊急事態発生、客室は避けて、従業員に緊急放送をしたいときなどは、ブロック緊急指定したブロック選択スイッチの「従業員」を押します。
- 従業員すべての作動表示灯と、放送階選択指示灯が点灯します。

（書き込み項参照）

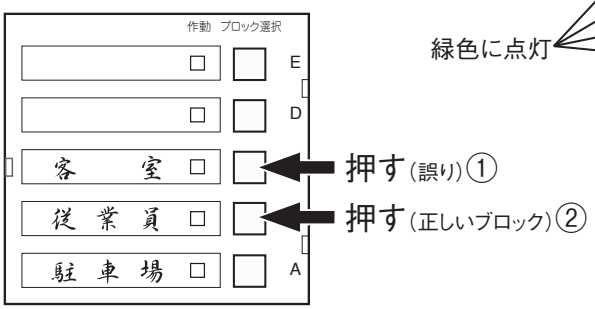


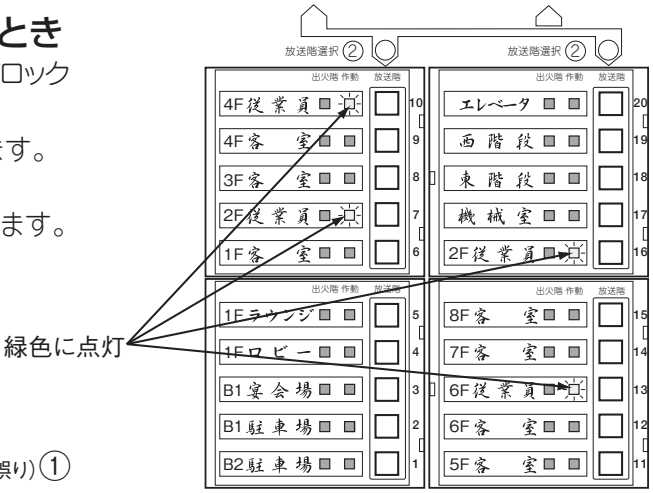
※ブロック緊急指定したところに目印をつけると緊急時に便利です。



●誤って他のブロックを押し、訂正するとき

- 従業員室に放送するところを、誤って「客室」のブロック選択スイッチを押してしまったときなどは、再度ブロック選択スイッチの「従業員」を押します。（後から押したスイッチが優先します。）
- 後から押した「従業員」の作動表示灯が点灯します。



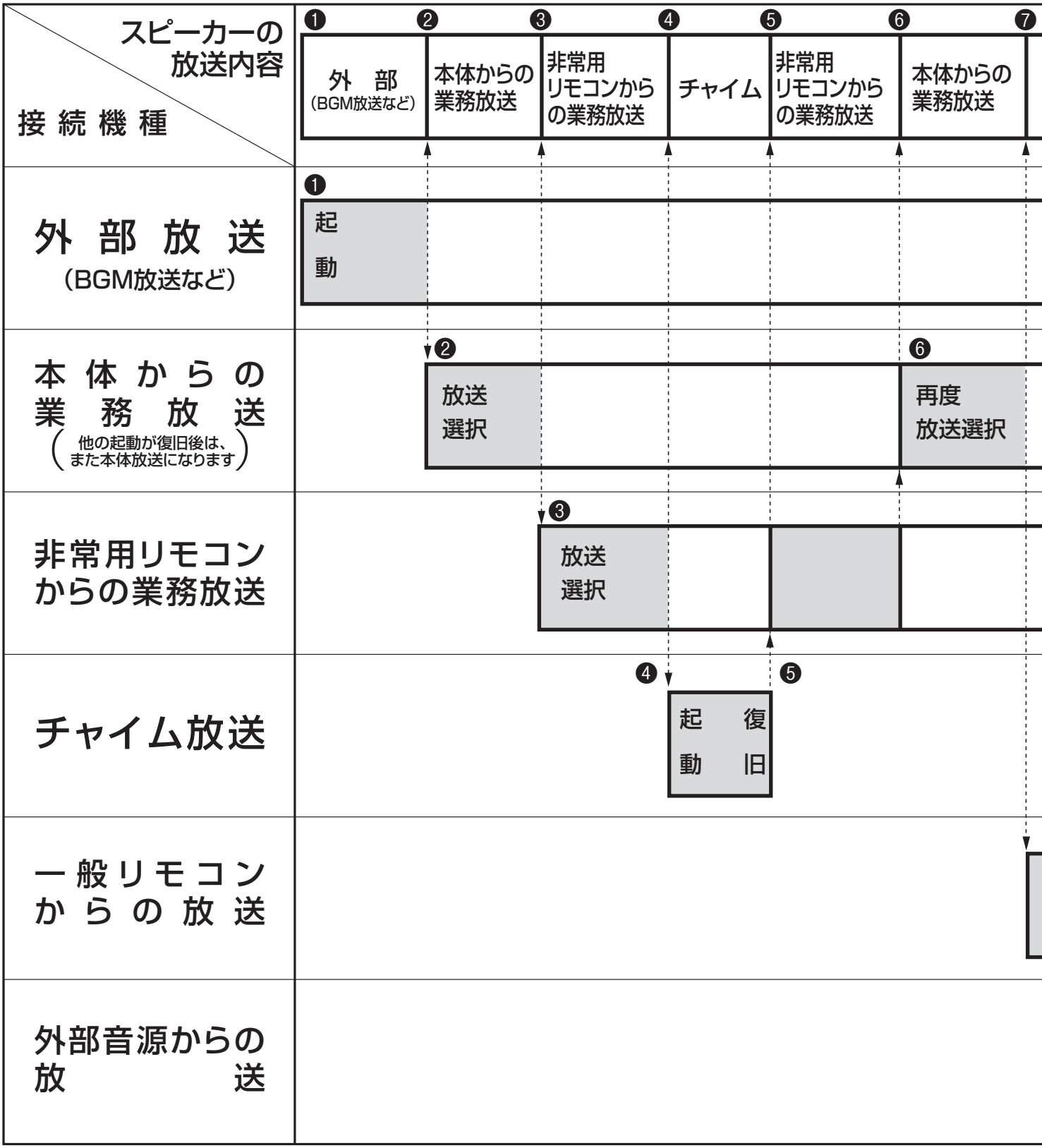


後押し優先方式について

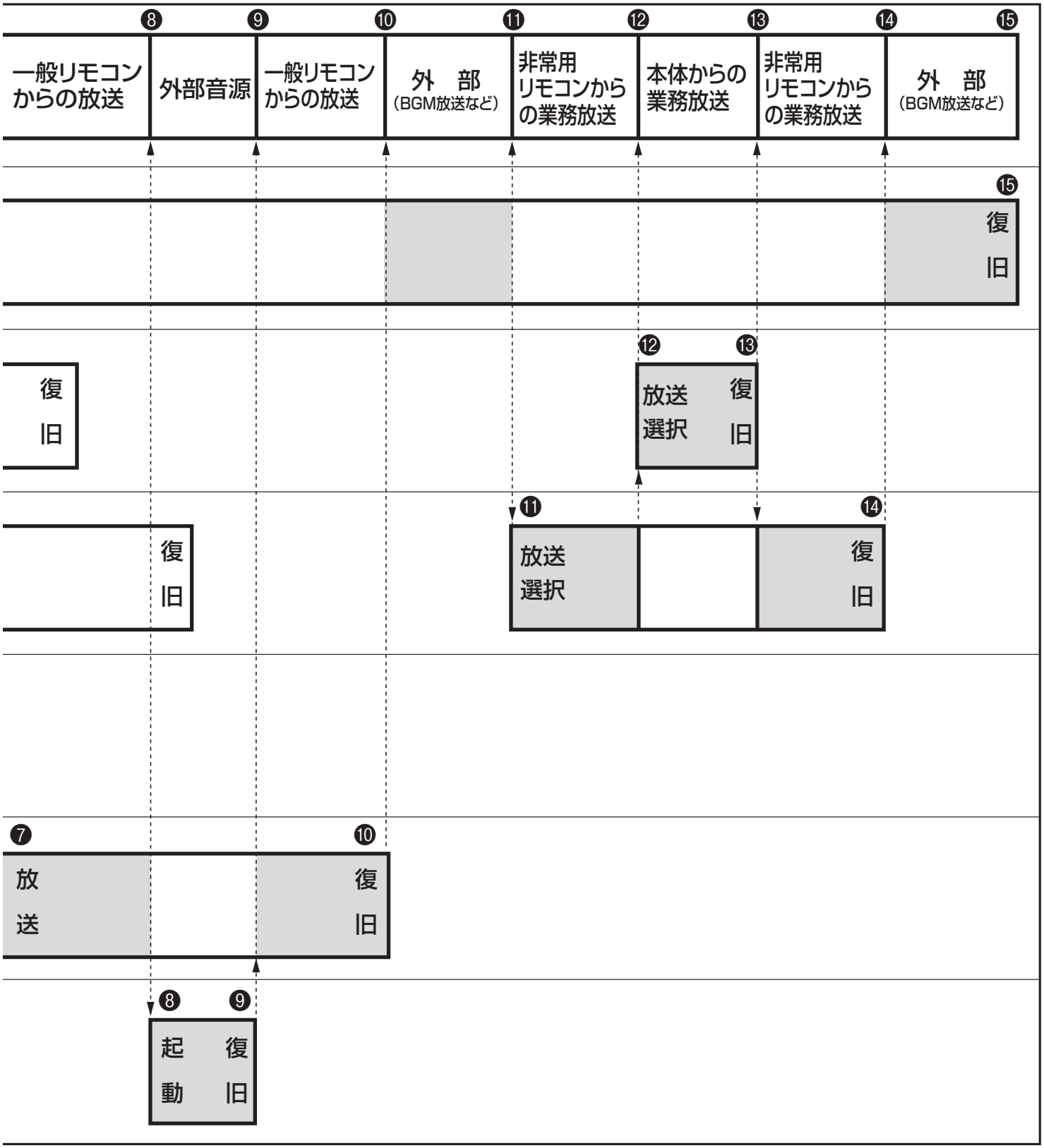
●本機は、後押し優先方式を採用しており、業務放送時には常に後から押したスイッチが優先します。
（非常放送時に後押し優先方式は働きません。）

●例えば、外部放送中に、本体マイクの放送を始めると、スピーカーからの放送は、本体マイクの放送になります。
また、本体マイクの放送が終了し、放送復旧スイッチを押すと外部放送が復旧されていないかぎり外部放送に戻ります。

[例] 下図は、本体および本体に接続される機器の放送開始や放送復旧の流れ図を示します。

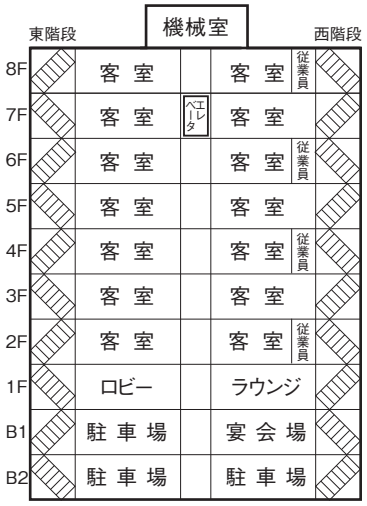


※ [　　] の個所が、スピーカーより放送されています。

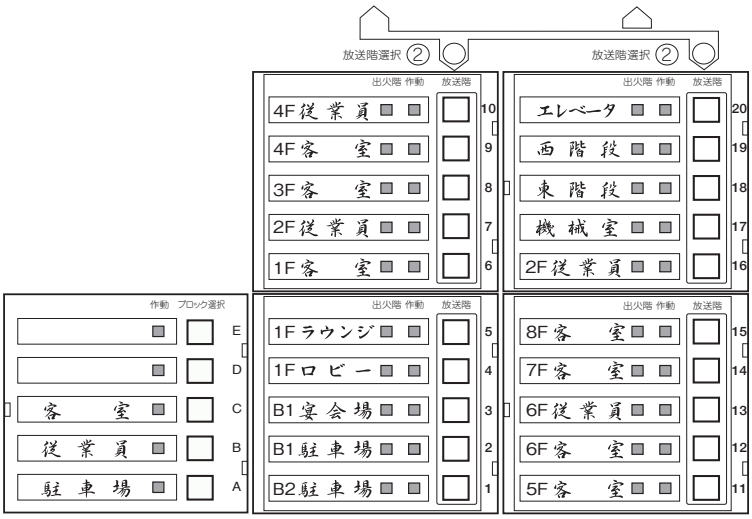


書き込みについて

■書き込みについて



操作パネル面



●本機には、建物の規模や放送の目的などによって、放送する場所や、機能を指定できる書き込み機能が内蔵されています。

●書き込み機能は10項目あり、本体マイクドア内のスイッチを使って書き込みします。

●項目6～10の一般リモコンの書き込みは、端子部ショートまたは本体操作パネルスイッチから書き込みが可能です。

●「書き込み」をおこなうには、工事説明書（書き込み編）をお読みになるか、販売店にご依頼ください。

1. 出火階、連動階の指定

- 地下階やエレベーターまたは、業務放送の関係で、1つの階に2つ以上のスピーカー回線がある場合に、出火階と、それに連動して放送される階（連動階など）などの指定をすることができます。
- 1つの放送階選択スイッチが1つの階である場合には、書き込みしなくても、連動階、出火階に放送されます。

2. 階情報指定

- 放送階選択スイッチへの階情報の割り付け、及び日本語放送、外国語放送の指定をします。（日本語のみ、および日本語と英語、中国語、韓国語の指定ができます。）

3. 一斉／緊急指定

- スピーカーのアッテネーターが「OFF」になっていても、一斉放送したい場所をまとめて放送できます。：緊急・一斉
- アッテネーターが「OFF」のときは放送できなくすることも可能です。：一斉

4. タイマー設定

- 発報放送から火災放送へ移行するまでの時間：第1タイマー
- 火災放送から一斉火災放送へ移行するまでの時間：第2タイマー
- 発報放送の繰り返し回数と繰り返すまでの時間を設定します。

5. ブロック設定

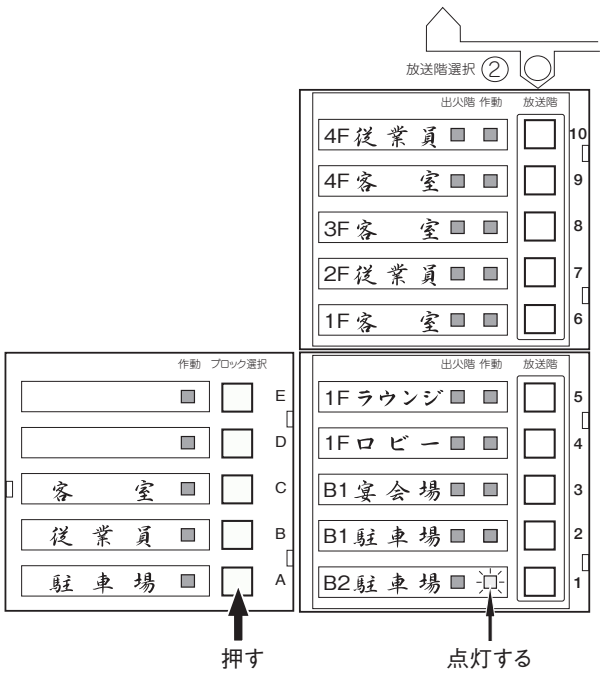
- A～Eのブロック選択スイッチにより、階とは無関係に同一放送したい場所をまとめて放送することができます。
- 例えば、上図のホテルを例にしますと、各階の従業員室のみ放送したい場合をあらかじめブロック指定（書き込み）しておきますと、ブロック選択スイッチ1つで、従業員室すべてを、まとめて放送することができます。

6. 一般リモコン設定

- 一般リモコンからの放送を **ブロック放送** **一斉放送** 同様に、まとめて放送することができます。

メ　モ

- **一般リモコン個別入力設定** **ブロック設定** の書き込み指定をしない場合、A～Eのブロック選択スイッチおよび、5局リモコンマイクは、放送階選択スイッチの1～5に対応（10局リモコンマイクは、放送階選択スイッチの1～10に対応）しています。
- Aのブロック選択スイッチを押すと、Aの作動表示灯が点灯し、1のスピーカー回線に放送されます。



7. チャイム設定

- 始業や終業および休憩時間などのチャイム放送したい場所をまとめて放送することができます。（書き込み指定しない場合は、緊急一斉放送となります。）

8. 外部ブロック放送

- 外部放送とは、BGMなどを1日中放送したい場合に使うもので、BGMなどが動作しているときは、常にBGM放送が流れています。途中で、マイク放送などでBGM放送が中断されてもマイク放送などが復旧すれば再びBGMが流れます。
- 外部放送は、**チャイムブロック放送** 同様にまとめて放送することができます。（書き込み指定をしない場合は、緊急一斉放送となります。）

9. 外部音源入力設定

- 外部音源を使用するとき、放送したい場所を指定することができます。（書き込み指定をしない場合は、緊急一斉放送となります。）

10. 汎用出力

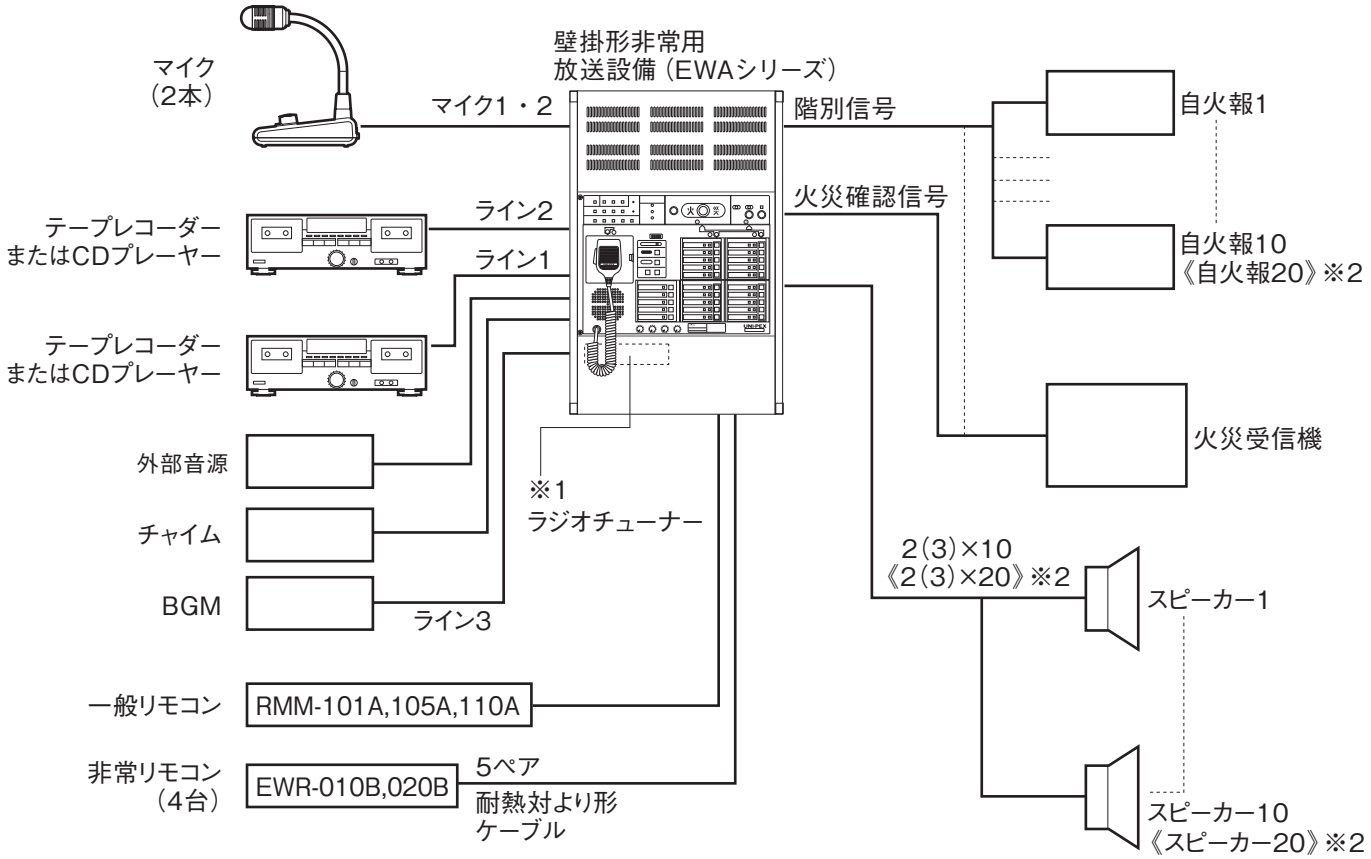
- この出力端子を7種類の書き込み項目に従い、出力制御できます。

- 接続については、販売店にお申しつけください。
- 非常放送の内容は録音できませんのでご注意ください。
  （録音できるのはマイク1･2、ライン1･2･3、ラジオチューナーの音声のみです。）
- マイク1、ライン2は底面の外部入力ジャックにも接続できます。
  （外部入力ジャックに接続した場合は、内部入力端子の入力は”断”となります。）

接続できる機器について

■接続できる機器について

- 接続については、販売店にお申しつけください。
- 非常放送の内容は録音できませんのでご注意ください。
  （録音できるのはマイク1･2、ライン1･2･3、ラジオチューナーの音声のみです。）
- マイク1、ライン2は底面の外部入力ジャックにも接続できます。
  （外部入力ジャックに接続した場合は、内部入力端子の入力は”断”となります。）



※1
EWA-010RB、020RBの場合のみ　　※2《　　》内は20回線仕様時

■マイク優先回路について

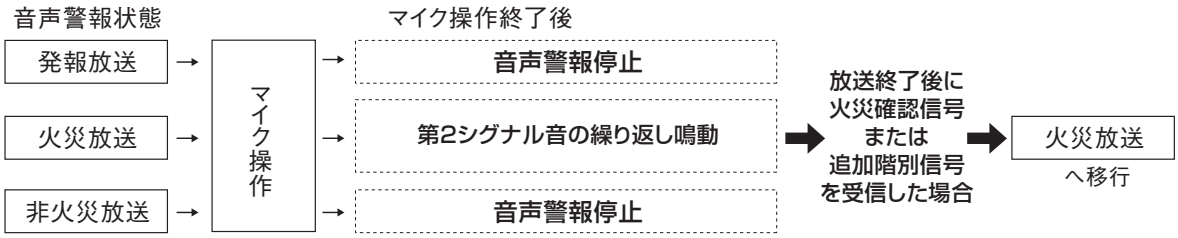
- マイク1、マイク2の放送中はライン1、ライン2の音声を減衰させることができます。
  （ライン1、ライン2以外は、減衰しません）

●減衰量は基板内部で調節できます。（販売店にお申し付けください。）

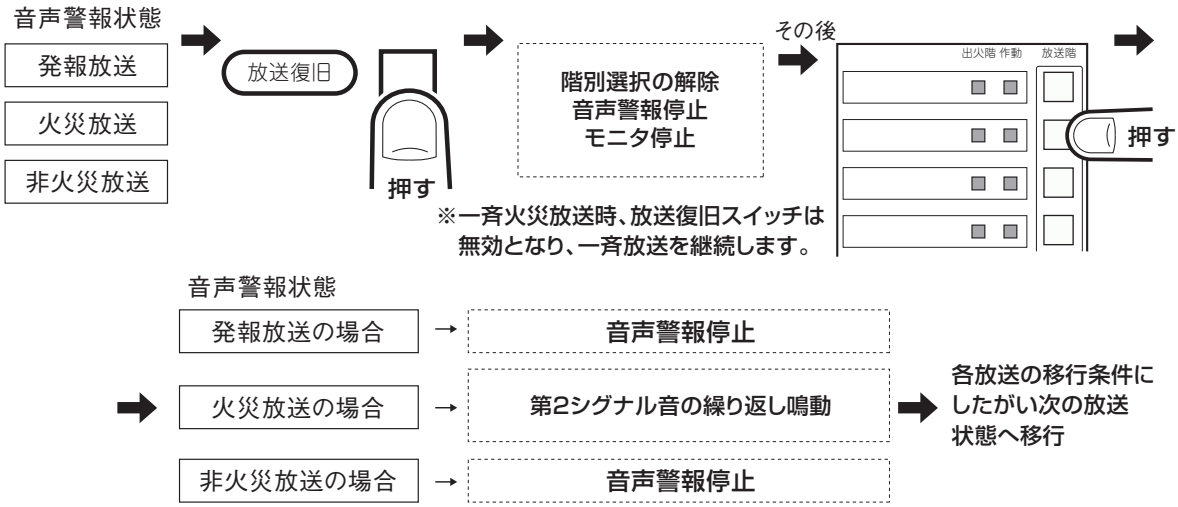
その他の動作

■非常・業務兼用マイク操作について

• 非常･業務兼用マイク操作は、音声警報状態に優先します。



■放送復旧スイッチ操作について



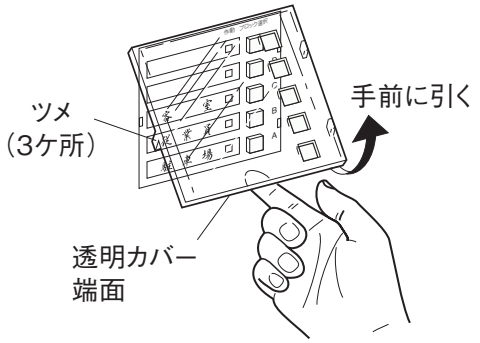
●自火報に確認信号がない場合は感知器起動動作になります。

表示カードの使いかた

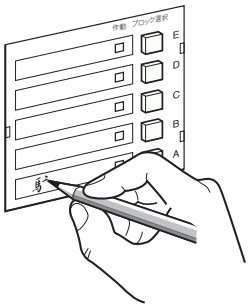
※放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

〈表示カードへの記入方法〉

• 透明カバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、透明カバーを外します。
• カバーの下の表示カードにスピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



• 表示カードの記入は、鉛筆でおこなうと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。



• 記入後は透明カバーをもとの位置に取り付けてください。
• 透明カバーのツメ部分は無理に力を加えると折れてしまいますので、取り付け、取り外し時にはご注意ください。

日常点検

お願い

万一の際、確実に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。
日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または、保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を実費でおこないます。詳しくは、販売店にご相談ください。

■点検について

- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターがリモコン回線、コンピューター自身、スピーカー回線（短絡）、本体マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピューターが異常を発見したときは、非常操作パネル左上の各異常表示の表示灯が点灯し警告音（ピー）が鳴ります。どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。（異常は本体か非常リモコンかを確認してください。）

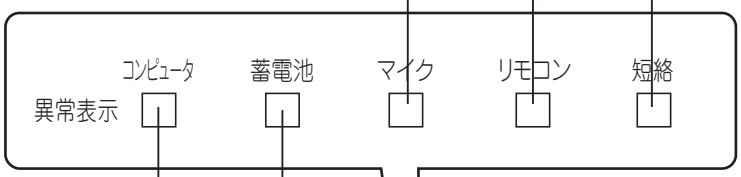
●警告音を止めるには操作パネルのいずれかのスイッチを押してください。

- 一時的に止めることができます。異常表示部の表示灯は点灯したままです。
（コンピューター異常表示灯点灯時を除く。）

リモコン異常表示灯（赤色）
非常リモコンとの通信に異常が発生した時に点灯します。

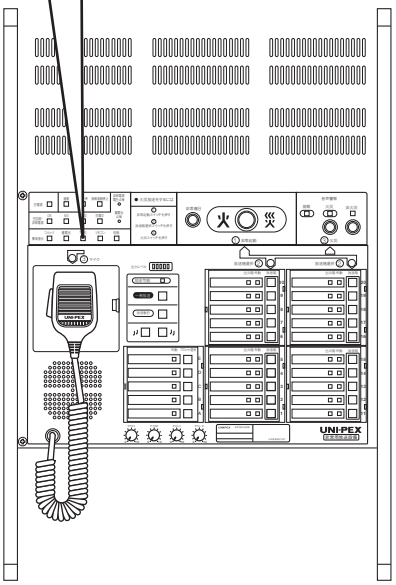
短絡表示灯（赤色）
スピーカー回線が短絡すると点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

マイク異常表示灯（赤色）
本体マイクが断線状態になると点灯します。リモコンのマイク異常であれば、異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。



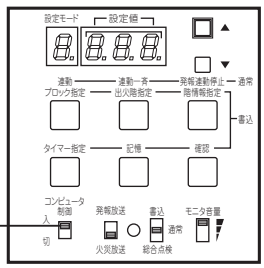
コンピューター異常表示灯（赤色）
コンピューターが異常のとき点灯します。

蓄電池異常表示灯（赤色）
蓄電池が異常のとき点灯します。
警告音（ピー）が4秒おきに鳴ります。



コンピューター異常、蓄電池異常、本体マイク異常、リモコン異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピューター制御スイッチを「切」にしてから（リセット）、「入」にしてください。

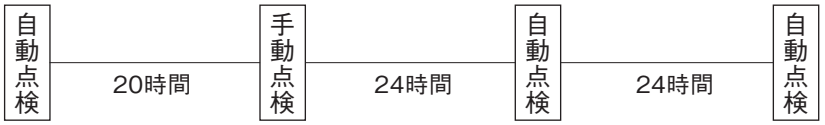
本体マイクドア内



■電源の点検

メ　モ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピューターが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



●自動点検

コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

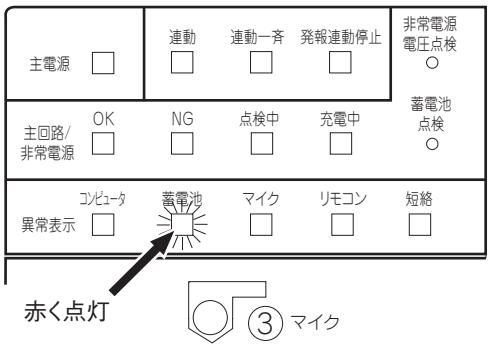
〔コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき〕

- 異常表示の「蓄電池異常表示灯」が点灯し、4秒おきに警告音（ピー）が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すと警告音（ピー）が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- 警告音（ピー）が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

コンピューターが異常を発見したとき



●手動点検

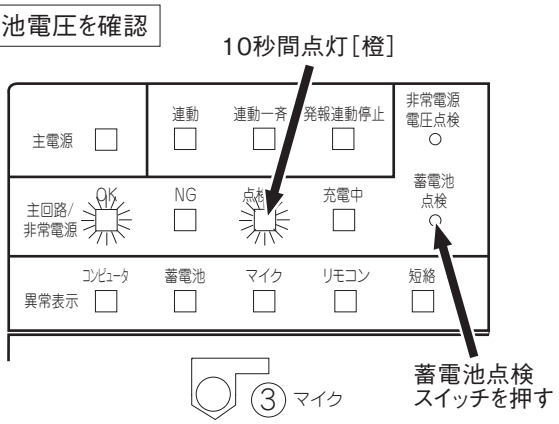
1.主回路電源電圧を確認してください。

非常電源電圧点検スイッチを押さないで、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。

2.蓄電池電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。点検中表示灯（橙色）が約10秒間点灯します。

蓄電池電圧を確認



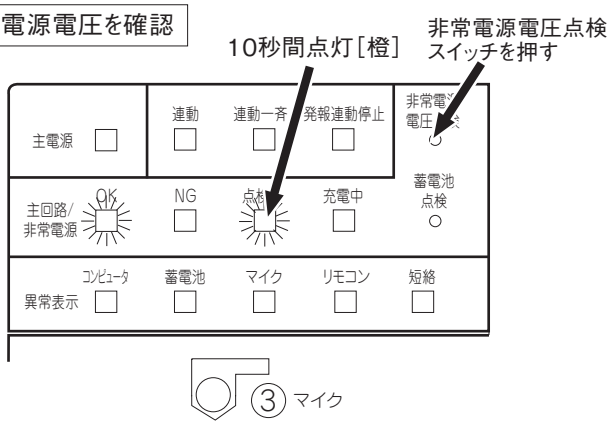
⚠注意

蓄電池の電圧の点検は、1日の点検で2回以内までとしてください。
指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

3.非常電源電圧を確認してください。

非常電源電圧点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。

非常電源電圧を確認



4.充電中表示灯が点灯していることを確認してください。

- 充電中は点灯となります。

日常点検

●蓄電池の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する

感電の原因となります。

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際、容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。

電力増幅ユニット(出力)	ニカド蓄電池
	品　　番
PWA-060(60W)	MBT-060
PWA-120(120W)	MBT-120
PWA-241(240W)	MBT-240
PWA-361(360W)	MBT-240

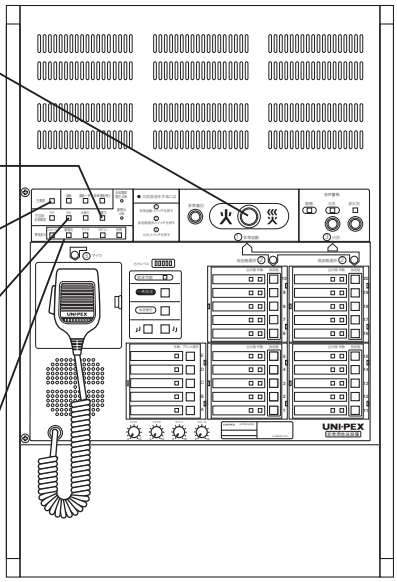
- 不要になったニッケル･カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル･カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。

Ni-Cd

こんなときには

すぐに販売店または、保守契約店にご連絡ください。

- 非常起動スイッチを押しても火災灯が暗い。
- 充電中表示灯が消灯。
- 主電源表示灯が消灯。
- 通常で使用時、または「非常点検スイッチ」や「蓄電池点検スイッチ」を押したとき「NG」が点灯。
- 各異常表示灯のいずれかが点灯。



保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が**義務づけられています。**
- 建物の規模、用途によっては**消防設備士**または、自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
- 当社では、非常用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」･「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。**

定　格

電源		AC100V　50/60Hz　DC24V(ニカド電池)	
電力増幅ユニット		EWA-010B・EWA-010RB・EWA-020B・EWA-020RB	
PWA-060（60W）		定格出力時電力	160W
		※消費電力	105W
		警報時DC消費電力	65W
PWA-120（120W）		定格出力時電力	350W
		※消費電力	190W
		警報時DC消費電力	120W
PWA-241（240W）		定格出力時電力	490W
		※消費電力	290W
		警報時DC消費電力	240W
PWA-361（360W）		定格出力時電力	690W
		※消費電力	380W
		警報時DC消費電力	310W
ミキサ部	周波数特性	50Hz～15kHz±2dB	
	歪率	1%以下	
	音質調整	低　100Hz±10dB 高　10kHz±10dB (1kHz基準)	
	マイク1、2 マイク1：外部ジャック（ジャック優先）	入力レベル	−62dBV
		入力インピーダンス	600Ωに適合 不平衡
		S/N	50dB以上
		回路数	2回路
	ライン2：外部ジャック（ジャック優先）	入力レベル	−22dBV
		入力インピーダンス	50kΩ　不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	ライン1（CD）	入力レベル	−22dBV
		入力インピーダンス	10kΩ 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	一般リモコン	入力レベル	−2dBV
		入力インピーダンス	600Ω 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	外部音源	入力レベル	0dBV
		入力インピーダンス	10kΩ 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	チャイム	入力レベル	−22dBV(0dBVに切換可能)
		入力インピーダンス	10kΩ 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	ライン3	入力レベル	−22dBV
		入力インピーダンス	10kΩ 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路
	録音出力	出力レベル	0dBV
		負荷インピーダンス	10kΩ
		回路数	1回路
	チューナー入力（EWA-010RB, EWA-020RBのみ）	入力レベル	−22dBV
		入力インピーダンス	10kΩ 不平衡
		S/N	65dB以上
		回路数	1回路

非常操作部	非常・業務兼用マイク入力	−46dBV 600Ωに適合　不平衡AGC付 (一般アナウンスと兼用)	
	音声合成部	日本語／英語／中国語／韓国語／5パターン切換 メッセージボリューム付(増設ロムボード取付可)	
	非常リモコン	入力レベル	−2dBV
		入力インピーダンス	600Ω 平衡
		回路数	1回路
	出力レベル表示	5ポイント発光ダイオード	
	モニタースピーカー	0.4W　8Ω アッテネーター付　(3段切換) ハウリング防止回路付	
	主回路電源 電圧表示	非常電源電圧 蓄電池電圧 プッシュノンロック切換方式	
	制御回路	放送階選択　10回線＋一斉（EWA-010B/010RB） 20回線＋一斉（EWA-020B/020RB） ブロック選択　5局	
	音声警報スイッチ	火災放送スイッチ 非火災放送スイッチ	
負荷インピーダンス		60W	100系：170Ω 70系　：83Ω
		120W	100系：83Ω 70系　：42Ω
		240W	100系：42Ω 70系　：21Ω
		360W	100系：28Ω 70系　：14Ω
使用蓄電池(非常用)	60W	MBT-060　1650mA/5HR	
	120W	MBT-120　3500mA/5HR	
	240/360W	MBT-240　6000mA/5HR	
外部制御端子（リモコンは各2台まで接続可）		階別信号入力EL（10／20） 火災確認信号入力EF EB接点（30V　1A） 非常外部制御(EMG24V ブレイク50mA) RU＋出力(＋24V　100mA) 一般外部制御入力 外部音源作動制御入力 チャイム制御入力 非常リモコン制御(専用インターフェイス)(10) 一般リモコン制御(10局＋一斉) コールサイン制御入力(上り／下り) ＋24V(100mA 一般リモコン時出力) スピーカー出力(10／20)(N／R／C) 汎用制御端子(オープンコレクタ　35V　50mA)	
自己診断機能		蓄電池、本体マイク、リモコン、短絡	
寸法		幅430mm 高さ662mm 奥行150mm (突起部除く)	

質量	電力増幅ユニット	EWA-010B	EWA-010RB	EWA-020B	EWA-020RB
本体のみ		約10.7kg	約11.2kg	約11.0kg	約11.5kg
電力増幅ユニット、蓄電池組込時	PWA-060	約18.6kg	約19.1kg	約18.9kg	約19.4kg
	PWA-120	約23.7kg	約24.2kg	約24.0kg	約24.5kg
	PWA-241	約25.2kg	約25.7kg	約25.5kg	約26.0kg
	PWA-361	約25.8kg	約26.3kg	約26.1kg	約26.6kg

外装	パネル、上下カバー、本体ケース： マンセル 5Y8／0.5 近似色(ライトグレー)

※電気用品安全法に基づく

■付属品

分電盤注意ラベル……1
取扱説明書(保証書付)……1
工事説明書(本編)……1
工事説明書(書き込み編)……1
操作説明書(6枚組)……1
ユーザー登録カード……1
操作説明書透明ケース……1
壁取付けスペーサー……4
取付用型紙……1
グロメット……1

サポートのご案内

■ **修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。**
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。
①品　名　②品　番　③お買い上げ日　④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

■ **販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。**

営業所情報はホームページ
もしくは2次元コードにアクセス
してください。
https://www.unipex.co.jp

■ **その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。**

UNI-PEX お客様ご相談センター
0120-56-5245（通話料無料）
受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

壁掛形非常用放送設備　EWA-010B, EWA-010RB, EWA-020B, EWA-020RB

保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年　月　日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部) 6ヶ月
お客様	お名前　見本　様 ご住所〒 電話(　　)　-
販売店	店名・住所 印 電話(　　)　-

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社

保証規定
この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
（This warranty is valid only in Japan）

無料修理保証の範囲
①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲
（次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。）
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。